

1 基本情報

施策名	2 - 2 みどりを育み活かすまちづくり						戦略名	みどり活用プロジェクト		
担当	主担当部	市民環境経済部	主担当課	環境課						
	部長名	今井 美由紀	関係課	都市計画課	教育支援課	生涯学習課				

2 取組目標 (Plan)

取組目標	●豊かなみどりがあふれる白井市の良質な環境を、市民とともに守り、育むことで、愛着と誇りを持てるまちづくりを進めます。 ●市民一人ひとりがみどりの環境の大切さを認識し、豊かなみどりを守り、次世代に残すための取組を展開します。 ●森や河川、田園など市街地の外側に広がるみどりと市街地内の緑地や樹木などのみどりがチェーンのようにつながり、みどりが持つ暮らしを豊かにする多様な可能性を活かします。
求める成果	・市民にみどりを自ら守るという意識が醸成される。 ⇒豊かなみどりの環境を次世代につなげるまちになる。

3 令和7年(2025年)度取組状況 (Do①)

取組1 白井の自然環境の豊かさを知り育むための環境学習の推進						
取組方針	・学校や市民団体などと連携し、みどりが形成されてきた歴史やその貴重さなどに関する学習機会を充実します。					
求める取組成果	・環境保全に取り組む市民や市民団体が増え、行政との協働により、みどりの環境が保全される。					
取組内容	・市民団体との協働による環境フォーラムや講座等の開催 ・各小中学校の教育計画に基づき、学習や体験等を取り入れた授業やワークショップの実施 ・地球温暖化対策に係る市民講座の実施 ・市民団体・大学・他市と共催で里山学校等のイベントや自然のモニタリング調査を実施					
構成事業	事業名		評価	事業No	事業名	評価
	1	環境学習推進事業	改善して継続			

取組2 市民によるみどりのネットワークづくりに対する支援						
取組方針	・市民団体が自ら、道路沿いなどの身近なみどりを育て、みどりのネットワークをつくる活動を進めます。					
求める取組成果	・環境保全に取り組む市民や市民団体が増え、行政との協働により、みどりの環境が保全される。					
取組内容	・市内の沿道に草花を植栽する団体（49団体）に対し草花の苗等の購入に要した経費の一部を補助 ・市HPや広報による事業の周知 ・白井環境フォーラムで団体の植えた草花等をパネル展示で紹介し、市民に本事業の取り組みを周知 ・市民団体同士の繋がりをつくるため、過年度分も含め各団体の実績を1つのファイリングにして窓口に配架					
構成事業	事業No	事業名	評価	事業No	事業名	評価
	2	沿道みどりの推進事業	改善して継続			

取組3 地域での環境保全や創出の取組としてのグラウンドワークの推進						
取組方針	・みどりの地域資源を守り、育む活動など、地域や市民団体などが連携した取組を進めます。					
求める取組成果	・環境保全に取り組む市民や市民団体が増え、行政との協働により、みどりの環境が保全される。					
取組内容	・市民団体と企業との協働による神々廻市民の森の入り口付近での花壇づくりを継続 ・企業の協力でゴルフの使用済ボールを利用し、花壇内のなし坊の補修や除草等適切な維持管理の実施 ・企業との協働で生物多様性に配慮した森の管理や外来生物の駆除を試験的に実施					
構成事業	事業No	事業名	評価	事業No	事業名	評価
	3	森のグラウンドワーク推進事業	改善して継続			

取組4 自然とのふれあいや癒しの場としての里山の保全と活用						
取組方針	・市民や市民団体などと協働し、（仮称）谷田・清戸市民の森など、里山を積極的に保全・活用します。					
求める取組成果	・環境保全に取り組む市民や市民団体が増え、行政との協働により、良好なみどりの環境保全が持続できる。					
取組内容	・市民環境経済部局（環境課）と都市建設部局（都市計画課）で区域の設定や整備にあたっての課題の共有を行った。 ・市民団体との連携協働による草刈りや間伐等、生物多様性に配慮した管理を実施した。 ・気候変動適応や生物多様性の推進に関する環境学習を企業、大学、市民団体等と連携して行った。					
構成事業	事業No	事業名	評価	事業No	事業名	評価
	4	（仮称）谷田・清戸市民の森整備事業	改善して継続			

4 施策展開の状況(Do②)

改善した取組	・沿道みどりの推進事業において、団体が申請や実績を提出する際に、簡単なヒアリングを行った。 ・環境学習事業において、市民団体、大学、他市と共催でイベントや自然のモニタリング調査を実施した。
他分野他施策との連携	・環境学習推進事業は、引き続き教育委員会（小中学校）と連携し実施した。 ①小学校庁舎見学の際、環境課業務の説明や展示している生物と環境との関係を説明し、環境に対する興味関心の高揚に努めた。 ②中学生を対象とする脱炭素未来ワークショップの実施について、千葉大学教員等の有識者との調整を連携して行い円滑に授業が実施された。
市民等との情報共有、参加・協働	・市民団体等と協働して環境保全活動の契機となるよう環境フォーラムや環境学習講座を開催して、市民の自然環境に対する興味・関心の向上を図った。 ・市民団体・大学・行政と協働で里山学校等のイベントや自然のモニタリング調査を実施した。

5 施策推進コスト(Do③)

(千円、%)

年度 項目	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
事業費	666	950	662	830	886
正職員人件費	5,380	5,380	5,605	5,605	6,377
合計	6,046	6,330	6,267	6,435	7,263
プロジェクト内割合	36.7%	65.6%	48.4%	49.9%	67.3%

年度	事業費	人件費	合計
R3 (2021)	666	5,380	6,046
R4 (2022)	950	5,380	6,330
R5 (2023)	662	5,605	6,267
R6 (2024)	830	5,605	6,435
R7 (2025)	886	6,377	7,263

6 1次評価(Check①&Action①)

(目標値設定の考え方は白井市第5次総合計画後期基本計画書の82頁を参照ください)

	指標名			単位	基準値/基準年度		目標値		実績値				
					R7 (2025)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)			
定量的評価	取組指標	市民団体との協働による環境保全活動数（累計）			回	-	-	30	24	50	74	98	122
		環境活動を行う団体数			団体	56	R1 (2019)	62	66	63	60	58	58
	成果指標	自然保護活動に取り組む市民の割合			%	1.8	R1 (2019)	2.3	8.9	16.3	16.3	17.6	17.6
		環境美化活動に取り組む市民の割合			%	7.0	R1 (2019)	8.0	18.5	23.3	20.2	28.1	27.1
定性的評価	市民・市民団体による緑化活動や産学官民の連携による生物多様性に配慮した保全活動、環境学習事業、グリーンインフラなどの先進事例の勉強会を通じて環境意識の醸成に図ることができた。一方、市内の自然環境の整備に係る方針や区域の確定などの検討、環境活動を行う団体数の減少、熱中症対策を講じた上でのイベント開催や保全活動等といった持続可能な活動の仕組みづくりが引き続き課題となっている。									進捗状況	☐ 順調 ☒ おおむね順調 ☐ やや遅れている ☐ 遅れている		
遅れている取組の原因		内部要因				外部要因							
施策を取り巻く環境の変化		・国では、令和6年に「第六次環境基本計画」が策定され、環境保全を通じた、将来に渡る国民一人ひとりのウェルビーイング（高い生活の質）が最上位の目的に掲げられ、環境収容力を守り、環境の質を上げることによって、経済社会が成長・発展できる「循環共生型社会」の構築を目指すとしてされている。このことから、白井市第3次環境基本計画の中間見直しを行い、これら国や県の環境政策に係る動向を踏まえ、新たな施策に取り組む必要がある。											
課題		喫緊の課題					中長期的な課題						
		・市民や事業者が自然環境の大切さを理解し、興味・関心を持ちCO ₂ 排出量の削減・環境保全活動に参画してもらえるようPR方法やイベント内容を引き続き工夫する必要がある。 ・整備に係る方針や区域の確定などの検討、隣接地権者との合意形成が必要となる。					・環境保全の取組に対する効果の発現には長い期間が必要となる。 ・「良好な環境を未来につなぐ持続可能なまち」の実現のため、市民・市民団体に加え、企業等との取り組みをより一層推進する必要がある。						
施策の方向性（改善策）		短期的な方向性					中長期的な方向性						
		・市民団体、企業、大学、環境研究機関との連携による環境学習や環境保全活動を充実させる。 ・整備に係る方針や区域の確定については、他事業と統合・連携により森林の保全と新たな活用を検討する。 ・白井市第3次環境基本計画や都市マスタープランにおいて、中間支援組織の形成や連携の推進等を位置づけていることから、取り組みを強化していく。					・幅広い世代への環境学習や市民団体・企業等との協働による環境保全活動などを実施することで、環境の豊かさを享受し守る意識が醸成され、未来の環境保全活動を担う人材の育成につながり、豊かなみどりの環境を次世代につなげるまちを形成する。						
進め方		☐ 行政の役割を拡大 ☒ 現在の行政と市民の役割分担・協働を維持 ☐ 市民の役割・協働を拡大 この5年間で、環境学習推進事業については、新たに千葉大学と連携し、中学生を対象とした脱炭素未来ワークショップを取り組み、森のグラウンドワーク推進事業については、新たな企業と連携して花壇整備作業を始めることができ、それぞれ事業の充実を図ることができた。 今後は、継続して小中学校、市民団体、大学、研究機関等と連携・協働して環境学習や環境保全活動の取り組みを進めるほか、既存の環境保全活動を行っている団体の育成や継続のための支援等を、中間支援組織などとも連携し実施していく。											

7 2次評価(Check②&Action②)

白井市行政評価委員会による評価

市民団体などと連携し、地道に息の長い活動を行っており、環境保全だけではなく、市民の意識醸成につながり、これらの結果、自然保護活動や環境美化活動に取り組む市民が増えてきたものと評価している。
今後は、これらの活動を継続しつつ、白井市の良さを活かすため、産学官と連携して自然と調和したまちづくりを進め、次世代にみどり豊かな環境をつなげていく必要がある。